

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 愛媛県立新居浜東高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 792-0864
愛媛県立新居浜東高等学校

E-mail : niih-ad@esnet.ed.jp
 Website : http:niihamahigashi-h.ed.jp

児童生徒数：男子 347名 女子 558名 合計 905名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。
 ※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ
 いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1. 主な行事

○外務省高校講座 (H25. 7. 11)

演題『国際理解を深めるために～高校生にもできる事、やっておくべき事～』

〔生徒の感想〕

- ・日本と外国との関係が良く分かったし、私たちの夢についてもアドバイスもあり、充実した内容だった。最後におっしゃった『自分の世界を広げること』にこれから挑みたい。
- ・外国に興味があるが英語が苦手なので諦めていた。今回の講演を聞き、英語を頑張ろうと思った。興味のあることのために苦手なことも頑張って自分の世界を広げたい。
- ・自分のやりたいことを見つける、恥をかくことを恐れない、自分の世界を広げることが印象に残った。このことを忘れないようにこれからも頑張っていきたい。
- ・世界や日本のことなどたくさん情報を知ることができて良かった。

○芸術鑑賞会『地雷探知犬ニーナ』(H25. 10. 23)

〔生徒の感想〕

- ・こんなに悲しいことが世界で起きているのに、そのことを知ろうともせず、自分に協力できることさえしていなかった自分を本当に情けないと思った。人間だけじゃなく、戦争に関係ないはずの犬までが地雷を探していて、元気な自分が何一つできていないことに悔しさを感じた。これからは自分ができることはしっかり協力して、一人でもたくさんの人が幸せになることを願う。
- ・地雷については、テレビや授業などで知っていたが、詳しくは知らなかった。新聞で地雷除去のトラックが開発されたとあった。でも、やはり、人の手で一つ一つ取り除いていかないとだめなのかと思う。毎年たくさんの被害者が出ているのに、自分は募金くらいしかできないのが悔しい。地雷地帯に住む人たちが安心して暮らせる日はあと何年したらくるのだろうか。一刻も早く安心・安全な場所になってほしい。
- ・自分の知らない場所でこんなにも多くの人々が地雷のために命を奪われているという事実はすごく残念なことだ。地雷除去のために自ら地雷のある場所へと立ち向かう人、現地で悲しい過去を背負ったり、自分がいつ地雷に命を取られるかビクビクしたりしている人、何の罪もない人の命を簡単に奪う地雷は、本当に悪魔の兵器だ。苦しくて辛くても、義足をつけて長ズボンをはいて隠している人、何もなかったように笑顔で過ごす人、本当に強いと思う。人はやはり一人では生きていけないし、これはひとごとではない。自分も何か役に立つようなことができたらいいと思う。
- ・そこに地雷があるのにどうしてそこで暮らすのだろうか、なんで引っ越さないのだろうかと思っていただけ、そこでの暮らしやお金のことがあり、簡単に離れることができない現実を知った。「子どもは遊んでなんぼ」なのに、それをすると命にかかわる事が悔しい。どうして地雷なんて作ったのか、平和に暮らすことがどうしてこんなに難しいのか。カンボジアの人は強いと思う。自分にできることを進んで取り組みたい。
- ・麦わら帽子をかぶった人が言っていた「働かなければ食べていけない。大人も子どもも生きるために畑に入り、地雷を踏み、けがをする」という言葉が心に残った。私と同じ年やそれよりも小さい子どもたちが苦しんでいることがすごく悲しい。何ができるかわからないけど、支援に協力していきたい。

○愛媛県高等学校国際教育研究協議会東予地区研究会 (H25. 11. 14)

演題『(EPA) 介護福祉士への挑戦ーインドネシアから来日してー』

本校の活動報告

2. 今年度の取組み

○生徒会

生徒会では毎年、東雲際（文化祭）で募金の呼びかけを行っており、集まったお金は全てユニセフに寄付している。また、発展途上国へ贈る支援物資の呼びかけも適宜行っており、本校で集めた文房具類はNPO法人を通じてモザンビークやカンボジアに届け

ることができた。

○地域・国際研究部

今年度はカンボジア支援を中心に活動を行った。まず、カンボジアの現状を多くの人に知ってもらうために、今年の文化祭でカンボジアに関する展示を行った。また、生徒会や人権委員会と協力して募金を呼びかけ、集まったお金は全て松山市に在る高山さんの事務所（IMCCD）に届けた。しかし、経済的な支援は高校生にとって限界が在ることを知り、“高校生の私たちができること”で他に役に立つことはないか考えた。そこで、カンボジアの日本語教室で使ってもらえる教材を提供したいと考え、夏休みから試作品作りを開始し、あいさつカードや単語カードを作成することにした。単語カードは日本語と写真を対応させたものと日本語とクメール語を対応させたものなど様々なものを作った。また、クメール数字を使った百マス計算表なども作った。そして、スカイプを使ってカンボジアに在る高山さんにアドバイスをいただき、それらをもとに検討会を開き、9月から本格的な教材作りを開始した。単語カードは今後も修正や複製を行えるように、全てパソコンで作成することにした。また、雨の多いカンボジアで長く使ってもらえるようにラミネートをかけることにした。日本語の物の数え方は難しいと教えてもらったのでイラストを交えた表やクイズなどを作った。敬語カードはイラスト入りにした。反対語カードには日本語とクメール語をのせた。しかし、日本でクメール語はあまり知られておらず、調べたい単語全てを調べることはできなかった。百マス計算はアラビア数字で作り直した。また、解き方の解説カードも作った。10月に松山市で高山さんの帰国報告会があったのでこれらの教材と募金を持って参加した。報告会の後、懇談会を開いてもらい、教材をお渡しすることができた。なお、今回作った教材は現地で使ってもらえることになった。今後も募金活動を続けるとともに、もっと多くの人にカンボジアのことを知ってもらえるような啓発活動を考えたい。また、教材作りも継続し、現地の子どもたちに使ってもらいながら改良を加えたい。その際、一方的な押し付けにならないように私たちもカンボジアについて学ぶ必要が在るように思った。高校生の私たちにできることには限りがあるかもしれないが、これからも自分たちにできることを見つけていきたい。

○人権委員会－平和について考える－

今年、広島県の福山市にある福山人権平和資料館とホロコースト記念館を訪問し、平和について考えた。福山平和人権資料館では、福山空襲についての話を聞き、無差別爆撃の悲惨さや恐怖を知ることができた。ホロコースト記念館は、『アンネの日記』を中心に、「ホロコースト」（ナチスによる大虐殺）を知ってもらい、ホロコーストを通して平和を学ぶ目的で作られたものである。ここでは、ホロコーストとアンネについての話を聞いた後、展示を見学した。文化祭では、ホロコースト記念館より、ホロコーストについてのパネルと囚人服、『アンネの日記』に関する模型など貴重な資料をお借りし、展示発表を行った。フリーマーケットの収益金6913円はホロコースト記念館へ寄付した。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（学校行事での講演会など）